

25工場での生産設備の予備品管理を サイトリミックスで適正化

製造業において重要な役割を担う生産設備の管理。株式会社明治では、生産効率の向上と設備補修にかかるコスト最適化という課題を解決すべく、さまざまな取り組みを行ってきました。自社に適したシステムの模索を続ける中、日立パワーソリューションズの保守支援ソリューション「サイトリミックス」の部品管理システムに着目。25の自社工場（グループ会社は除く）への導入を通して、この取り組みが大きく前進しました。今後に向け、より精度の高い部品管理を追求するとともに、保全管理のメインシステムとして活用することをめざし、さらなる改善のための仕組みづくりを進めています。



課題

- 1 各工場で個別に管理していた在庫部品を共有化・適正化するためのプラットフォームが必要だった。
- 2 ダウンタイム削減を目的とした部品の抱え込みで、在庫部品が大きなコストとなっていた。
- 3 将来にわたって安心してシステムを使い続けるために、実績と信頼のあるパートナーを探していた。

解決

- ▶▶▶ サイトリミックスを導入して25工場の在庫部品を一元管理。個別最適から全体最適への動きを創出。
- ▶▶▶ 在庫部品数の可視化で、予備品管理への意識が各工場が高まり、コスト削減効果へも期待大。
- ▶▶▶ 多彩な業界の豊富な導入事例を持つ日立パワーソリューションズを選択。今後のアフターフォローも安心。

プロジェクトの経緯

急がれる予備品管理の一元化、強力なパートナーを求めて

明治ではバラエティ豊かな商品が国内は25の自社工場を中心につくられています。製造現場における設備管理の課題を、設備環境グループの花村氏が指摘します。

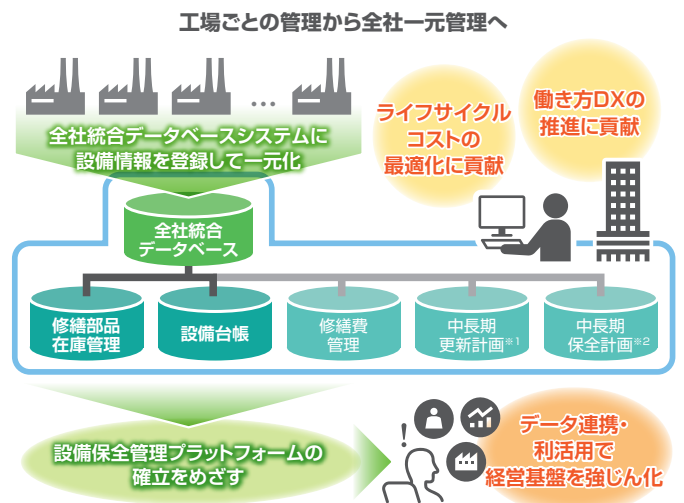
「以前は工場ごとに個別最適で部品管理していましたが、管理レベルにバラツキが出る、在庫部品を抱え込むといった課題があり、一元管理による固定費削減は喫緊の課題でした。多機能な汎用のパッケージソフトの導入も試みましたが、導入に手間がかかる、機能を使いこなせないなどの問題が起きました。それでも私たちは、早急に本社と全工場のプラットフォームを構築してシステム化を推進しなければなりませんでした」

ところが、新型コロナウイルス感染症の拡大が社会に大きく影響を及ぼし、システム化の検討も一時中断。その後、ESG経営への社会的要請の高まりを受け、社内での取り組みの一環として、2021年、プロジェクトは再開されました。花村氏は「部品の管理方法が変わることに対して、工場からは反発の声もありました。オンライン説明会を開催したり、個別で電話対応したり

して理解を得て、今では各工場での取り組みが進み、適正在庫や余分な部品を購入しないといった行動につながっています」と運用当初を振り返ります。

設備環境グループ長の小松氏は「工場勤務を経験して現場側の苦勞を知り、管理側で知恵を絞る際にその経験を生かした花村がいてこそ実現できた大きな成果です。工場からの意見を取りまとめ、日立パワーさんにしっかりつないだ彼は、このプロジェクトのキーマンです」と語ります。

システム構築のためのパートナー選定においては、日立パワーソリューションズの一択でした。「カスタマイズに柔軟に対応できることや、将来的なDXを考慮すると、日立パワーさんのほかに考えられませんでした」と花村氏は言います。



※1:システム構築中。2024年10月完成予定。 ※2:2025年度計画中。

株式会社 明治
ものづくり戦略本部 エンジニアリング部
設備環境グループ長

小松 傑 (こまつ すぐる) 氏



プロジェクトの成果

在庫部品の可視化が予備品管理の意識を高め、 工場の連携を加速

全工場一丸となってシステムを活用するに当たって、具体的な数値を目標に掲げたと小松氏は言います。

「まずは在庫総額のコストを1割削減することを目標にしました。サイトリミックスの導入によって、在庫状態がつぶさに確認できますから、取り組みへの意識も高まります。掲げた目標を達成する工場も出てきていますので、明確な削減効果が表れるのはこれからだと期待しています」

加えて、花村氏は「取り組みれば削減できるとみんなが理解したのは大きな成果です。また、工場の設備環境担当者のみならず、製造系の従業員も各自のパソコンから複数拠点の部品確認ができるようになり、自分の工場に必要な部品の在庫がないときに、どの工場にあるかを検索して迅速な部品の受け渡しが可能になりました。

半導体不足で電装部品がなかなか入ってこなかった時期も、効力を発揮してくれました」と、想定を超えた効果についても言及します。

さらに、効果の波及に小松氏は期待を寄せます。「25工場で6万数千アイテムある在庫部品の流動性を各自で確認できる可視性の高さを利用して、各工場が自分たちの部品管理をレビューするツールとして使うことができます。前期と今期の数値を比較したり、何の部品がどれだけ増えたのかを検証したり、部品管理の振り返りシートを作成する上で役立ちます。こうした取り組みを各工場が自発的に行うようになることが理想的ですが、実はこの動きも出てきています」

株式会社 明治
ものづくり戦略本部 エンジニアリング部
設備環境グループ

花村 大樹 (はなむら だいき) 氏



今後の展望

明治の総合的な保全管理ツールとして活用を広げたい

部品管理の改善活動が力強く動き始めた今、その先に描く新たなビジョンを小松氏は「私たちが取り組んでいるのは、各工場が個別最適でやってきた作業の標準化、つまり基盤固めです。今後は総合的な保全管理ツールとしてサイトリミックスを使っていきたい。そのために標準化した内容のアップデート、基盤の拡張は必須です」と言います。

花村氏は「具体的には、部品コストだけではなく、保全コスト全体を可視化して、製造間接費の低減に貢献し、コスト競争力アップをめざします。また、倉庫設備や物流設備にも展開し、同じシステムで管理すれば効率的です」と抱負を語ります。

小松氏は「個々の管理レベルが上がって精度の高い管理ができるようになれば、花村が述べたビジョンも現実味を帯びてきます。そのためには、一人一人が自発的に問題意識を持って取り組んでほしい。そして、『現場サイドから経営貢献するんだ』という自負を持って取り組んでほしいと思います。サイトリミックスはそのためのシステムであり、さらに使いやすくなるように花村を筆頭に私たちもサポートします」と強調します。

「部品管理システム」に特化してシンプルにスタートしたサイトリミックスの活用は、今後に向けてさまざまな役割を担い、総合的な保全管理ツールとして貢献していきます。

強固なパートナーシップで、ものづくりのさらなる高みへ

今後、日立パワーソリューションズに期待することについて、「部品管理を切り口に、設備修繕費に関連するデータの蓄積ベースができつつあります。これを活用してさらなる改善に向けた仕組みづくりをしたい。豊富な導入実績を持つ日立パワーさんには、他社事例の紹介をはじめ、システムをブラッシュアップするためのアドバイスを頂戴したいです」と花村氏。

また、小松氏は「サイトリミックスはこの国の製造業をレベルアップし、日本のものづくりを元気にしていくためのツールです。日立パワーさんは受注関係を超えたパートナーであり、より良くするためにお互いの意見をぶつけ合って進んでいきたいですね」と語ります。

日立パワーソリューションズは事業者さまの思いに、技術に裏打ちされた提案力で応え、食品製造事業の次の一歩を力強く支援していきます。



■ User's Profile

meiji 株式会社 明治

本社 〒104-8306 東京都中央区京橋二丁目2番1号

<https://www.meiji.co.jp>

「健康にアイデアを」のグループスローガンの下、明治グループの食品事業を担う。赤ちゃんから高齢の方まで、あらゆる世代に向けた商品ラインアップで世界中に「おいしさ・楽しさ・健康・安心」を届けている。

設立 1917年12月21日
資本金 336億4千万円
事業内容 牛乳・乳製品、菓子、食品の製造販売等



◎ 株式会社 日立パワーソリューションズ

発行元: 経営戦略本部

〒317-0073 茨城県日立市幸町三丁目2番2号

TEL: 0294-55-7185 (代)

URL: <https://www.hitachi-power-solutions.com/>

営業統括本部

インフラサービス営業部

中国支店

(03) 6285-2970

(0294) 55-7187

(082) 241-5051

北海道支店

(0294) 55-7187

九州支店

(011) 251-0513

(052) 263-0936

(092) 262-7811

東北支店

(022) 224-6444

関西支店

(06) 6377-8870